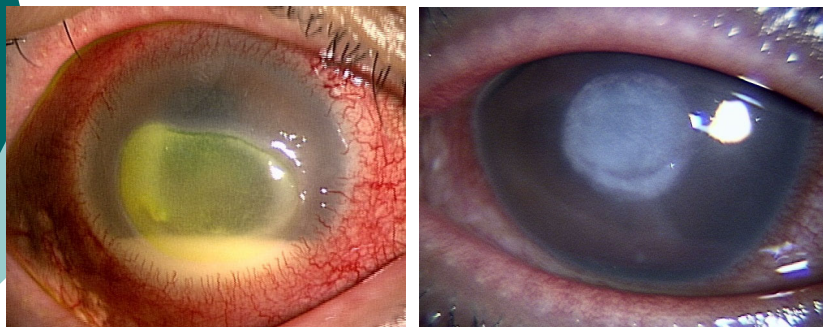


コンタクトレンズで失明するなんて

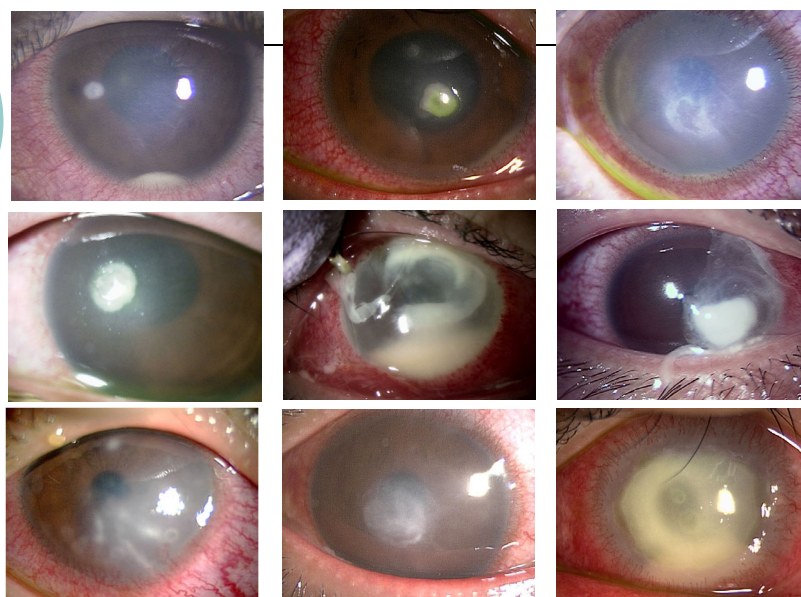


杏林大学眼科
日本コンタクトレンズ学会
山田 昌和



1

コンタクトレンズによる感染性角膜炎

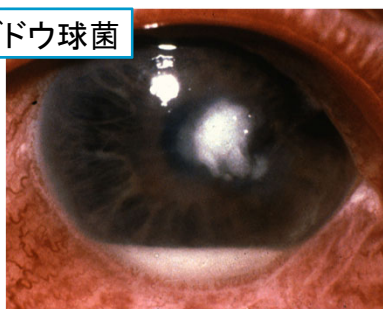


2

感染性角膜炎 コンタクトレンズの最も重篤な眼障害

CLの普及によって増加
CL装用者年間10,000人あたり20-30人の発症
米国では年間7万人の発症例
日本でも年間3-5万人と推定

ブドウ球菌

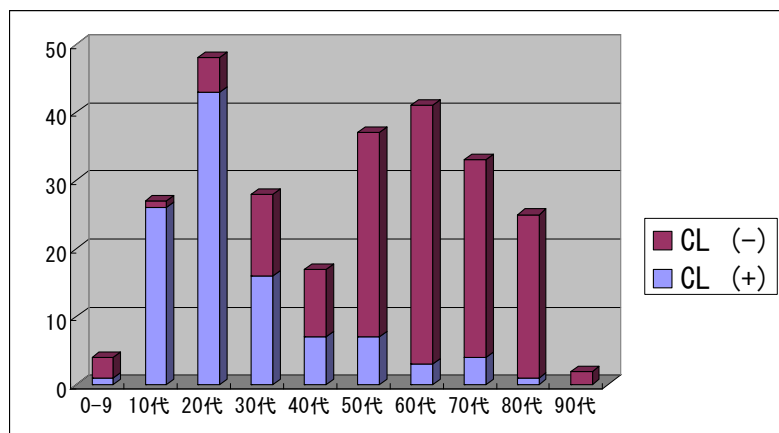


真菌



3

感染性角膜炎 本邦の現状



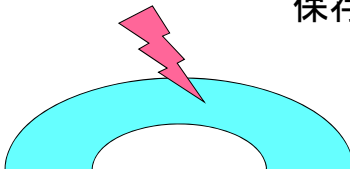
感染性角膜炎全国サーベイランスより

発症のピークは20代と60代の2峰性
全体の41.8%がコンタクトレンズによるもの

4

感染性角膜炎 CLが感染成立の条件を揃えてしまう

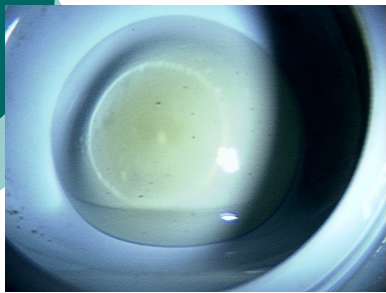
<p><u>CLの角膜への負荷</u></p> <p>角膜の低酸素状態 レンズの付着物 ケア用品</p> <p>ドライアイ アレルギー</p>	<p><u>細菌、微生物の供給</u></p> <p>レンズに付着 レンズケースから 保存液から</p>
---	--



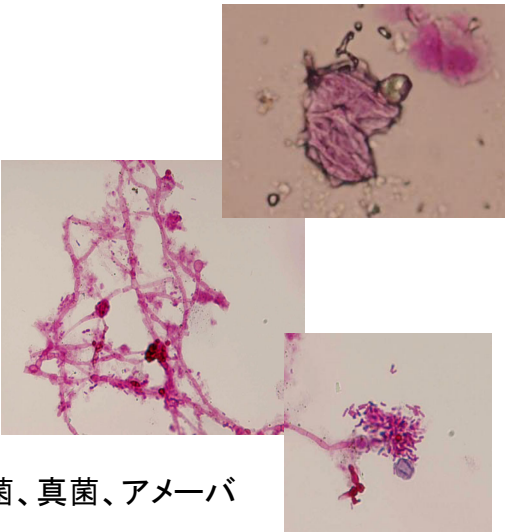
感染性角膜炎の発症

5

コンタクトレンズケースや保存液 感染性微生物の供給源になる



黒カビの生えた
レンズとレンズケース

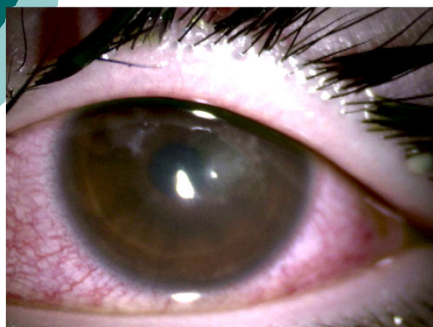


顕微鏡では、細菌、真菌、アメーバ

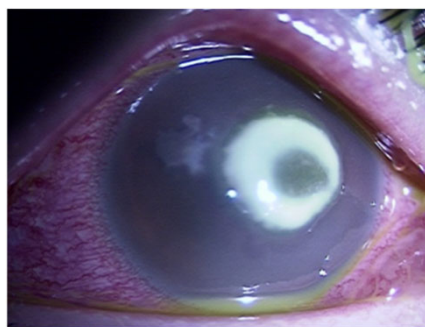
6

CLによる角膜炎:緑膿菌の例
症例:21歳 女性

初診時所見



初診の翌日には



初診時には淡い混濁だったのが、翌日には大きな膿瘍
放置すると角膜が融けて、目に穴が開いてしまう

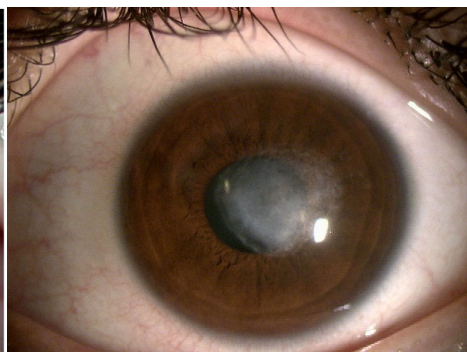
7

CLによる角膜炎:緑膿菌の例
症例:21歳 女性

初診から5日後



1ヵ月後



抗菌薬の点眼治療が奏功して感染は終息
角膜に癍痕(きずあと)が残り、視力は0.2まで低下

8

CLによる角膜炎:フザリウム(真菌)の例 症例:43歳 女性

初診時所見



2ヵ月後

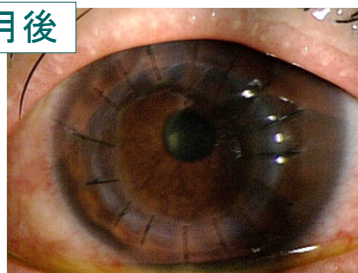


当初から真菌性角膜炎として治療したが、
薬物治療が効かずに徐々に混濁が拡大

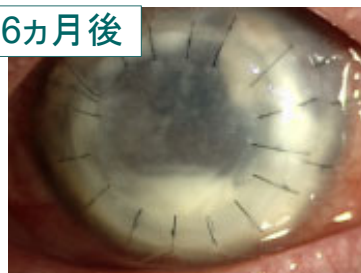
9

CLによる角膜炎:フザリウム(真菌)の例 症例:43歳 女性

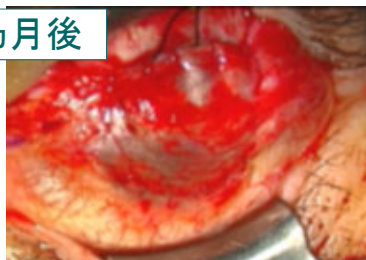
4ヵ月後



6ヵ月後



11ヵ月後



角膜移植を行ったが、
感染が再発

最終的に眼球を摘出

10

コンタクトレンズの重篤な眼障害 感染性角膜炎

- 現在、日本コンタクトレンズ学会で重症例や失明例の全国調査を施行中
100例以上が集まっています
- コンタクトレンズで失明すること、眼球自体を失うことがある
- 絶対安全なコンタクトレンズは存在しないが
ユーザーへの啓発、指導でリスクを減らせる
→ 眼科医療の果たすべき役割